

# 環境に適応するためのヒトの行動の研究

研究分野: 公衆衛生学、疫学、人類生態学

キーワード: ヒトの行動、疫学、人類生態学、数理モデル

貢献できるSDGsの区分:



看護栄養学部 栄養健康学科 講師 竹内 昌平

教員情報URL <https://sun.ac.jp/researchinfo/takeshou/>

## 研究概要

ヒトに限らず動物の行動の基本的な機能は、個体(自己)の維持(食物の摂取や危険の回避など)と個体群(種)の維持(配偶者の獲得や子孫の養育など)とされています。ヒトにおけるこのような行動は、その発現機構や発現させる心理面・社会面、あるいは個人・社会への影響という視点から多くの関心が持たれてきました。その中でも以下のような環境に適応する機構としてのヒトの行動に興味を持って研究しています。

### ✓ 感染症の流行から身を守る行動

- ✓ 新型コロナウイルス感染症の流行の様子を知る。
- ✓ インフルエンザなどの警報の効果を調べる。
- ✓ 結核の伝播経路を調べる。

### ✓ 健康を維持するための買い物行動

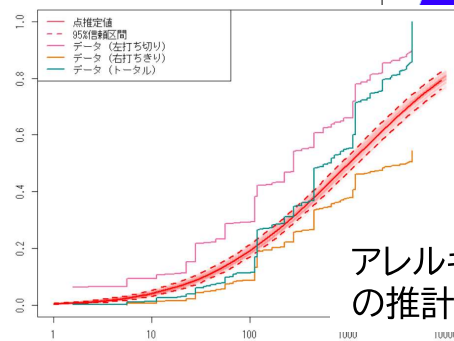
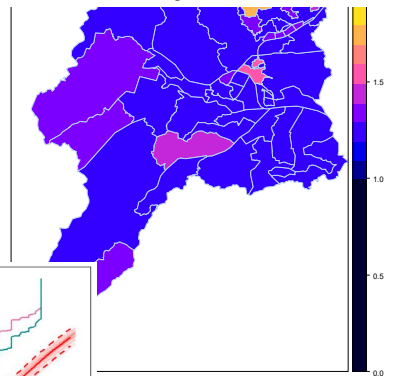
- ✓ 買い物難民の健康状態を調べる。
- ✓ 高齢者が買い物で移動する距離を調べる。

これらの課題を研究する方法として「数理モデル」を利用してきました。その結果、以下のような領域の研究も行っております。

### ✓ アレルギー症状誘発確率の推計

- ✓ ベンチマークドーズ法を用いた食物経口負荷試験のデータからのアレルギー症状誘発閾値の推計

A町におけるインフルエンザの基本再生産数( $R_0$ )の地域分布



アレルギー症状誘発量の推計結果

## 産学連携の可能性(アピールポイント)

数理モデルを用いた研究は、さまざまな研究テーマに適応可能です。上記、領域にかかわらず、共同研究可能なテーマはたくさんあると思っています。

## 外部との連携実績等

1. 長崎県環境保健研究センターなど地方衛生研究所(大阪健康安全基盤研究所など)と共同研究を実施
2. 2021年~24年度 基盤研究(C):「実効的な感染症流行リスクの予測マップ作成とその応用」
3. 成育医療研究センターとの共同研究
4. 食品安全委員会 評価技術企画ワーキンググループ専門委員